

2017年度決算(案) 説明資料

2018年5月25日
明治安田生命保険相互会社

I. 2017年度決算(案)のポイント	P 2
II. 明治安田生命グループの業績	
1. グループ保険料	P 3
2. グループ基礎利益	P 4
3. 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロッパ・エンベディッド・バリュー (EEV)	P 5
4. 連結損益計算書・連結貸借対照表	P 6
III. 明治安田生命単体の業績	
1. 保険料等収入	P 7
2. 年換算保険料(個人保険・個人年金保険)	P 8
3. 保有契約高(団体保険・団体年金保険)	P 9
4. 基礎利益	P 10
5. 資産運用収支	P 11
6. 健全性指標・企業価値(EEV)	P 12
7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準	P 13
8. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)	P 14
9. 損益計算書・貸借対照表	P 15
IV. スタンコープ社の業績【参考】	
1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益	P 16
2. 損益計算書・貸借対照表(スタンコープ社)	P 17
V. 社員(ご契約者) 配当	P 18
VI. 業績見通し	P 19
VII. トピックス	P 20~P 24
1. 「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現をめざして	
2. 「お客さまとの絆」	
3. 「地域社会との絆」	
4. 「働く仲間との絆」	
5. 新たな「健康増進プロジェクト」の始動について	

I. 2017年度決算（案）のポイント

1 明治安田生命グループ・単体ともに増収増益、基礎利益は過去最高益

- ・明治安田生命3ヵ年プログラム「MYイノベーション2020」の初年度にあたる2017年度は、国内で成長が見込まれる「第三分野」「高齢者・退職者」「女性」「投資型商品」の4つを重点マーケットと位置付け、外貨建て保険や、シニア層向けの終身医療保険等を新たに発売。また、海外ではグループ経営管理体制の強化を図るとともに、既存投資先の収益力強化に資する取組みを強化
- ・新商品の業績貢献に加え、2016年3月に子会社化したスタンコープ社の業績貢献等によりグループ・単体ともに増収
- ・基礎利益は、外国公社債の積み増し等による利息及び配当金等収入の増加が利差益拡大に貢献したほか、スタンコープ社の利益貢献等により、グループ・単体ともに過去最高益

2 財務基盤の強化等を通じて、高い健全性を維持

- ・2017年11月には国内劣後債を発行するなど、長い歴史のなかで着実に積み上げてきた財務基盤により、連結ソルベンシー・マージン比率は990.2%、オンバランス自己資本は2兆6,511億円と、引き続き高い健全性を維持

3 個人保険・個人年金保険の配当率を2年連続で引き上げ

- ・死亡率の改善等をふまえ、危険差配当率を引き上げ
- ・増配額は約70億円で、明治安田生命発足以来、2番目の引き上げ幅

4 2018年度は、明治安田生命グループ・単体ともに増収、基礎利益は横ばいの見通し

- ・保険料等収入は、外貨建て保険に加え、第三分野商品の拡販等により、グループ・単体ともに、2017年度から「増収」の見通し
- ・基礎利益は、グループ・単体ともに過去最高益となった2017年度と同程度の「横ばい」の見通し

Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

1. グループ保険料

■ グループ保険料

(単位：億円)

	2017年度			2016年度
		前年度比	占率	
グループ保険料 ^(注1)	30,243	+5.5%	100.0%	28,663
明治安田生命単体	27,194	+4.0%	89.9%	26,158
海外保険事業等 ^(注2)	3,049	+21.7%	10.1%	2,505
うちスタンコープ社 ^(注3)	2,811	+24.1%	9.3%	2,265

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から12月までの12ヵ月

(注3) スタンコープ社の2016年度は3月(株式取得月)から12月までの10ヵ月分

○グループ保険料は、3兆243億円と前年度比5.5%の増加

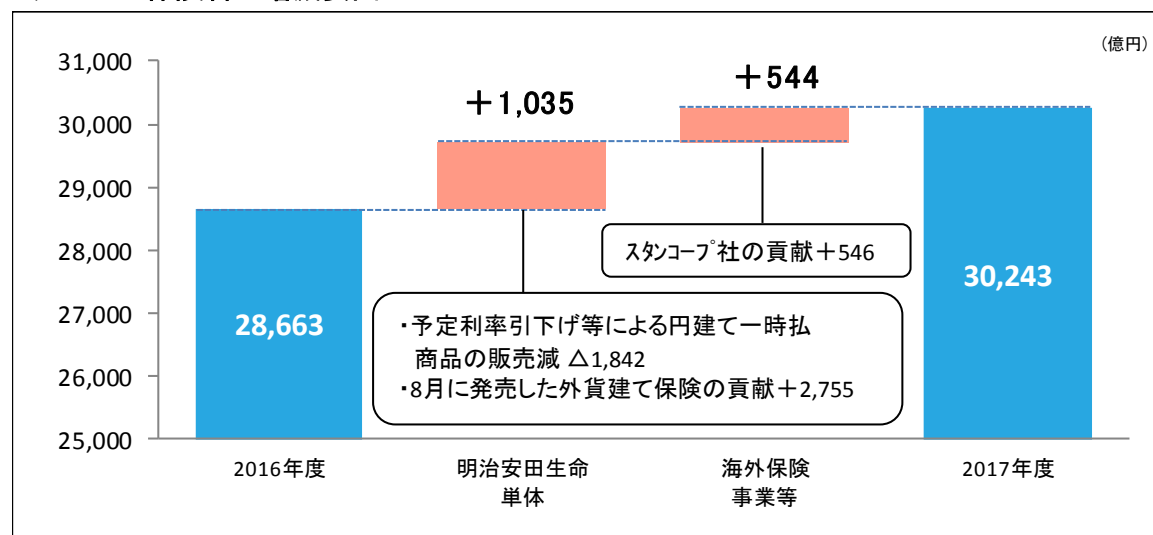
- ・明治安田生命単体で2017年8月に発売した外貨建て保険が貢献

- ・2016年3月に子会社化したスタンコープ社の業績が貢献

○グループ保険料のうち、海外保険事業等は、3,049億円と前年度比21.7%増加

- ・グループ保険料に占める海外保険事業等の割合は、10.1%(前年度差+1.3ポイント)と順調に伸展

■ グループ保険料の増減要因



II. 明治安田生命グループの業績

2. グループ基礎利益

■ グループ基礎利益

(単位：億円)

	2017年度			2016年度
		前年度比	占率	
グループ基礎利益 ^(注1)	5,851	+17.9%	100.0%	4,962
うち明治安田生命単体	5,467	+15.7%	93.4%	4,723
うち海外保険事業等 ^(注2)	506	+37.6%	8.7%	368
うちスタンコープ社 ^(注3)	359	+49.5%	6.1%	240

(注1) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注2) 海外保険事業等は、国内生命保険事業以外の合算。なお、海外の子会社等は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から12月までの12ヵ月

(注3) スタンコープ社の2016年度は3月(株式取得月)から12月までの10ヵ月分

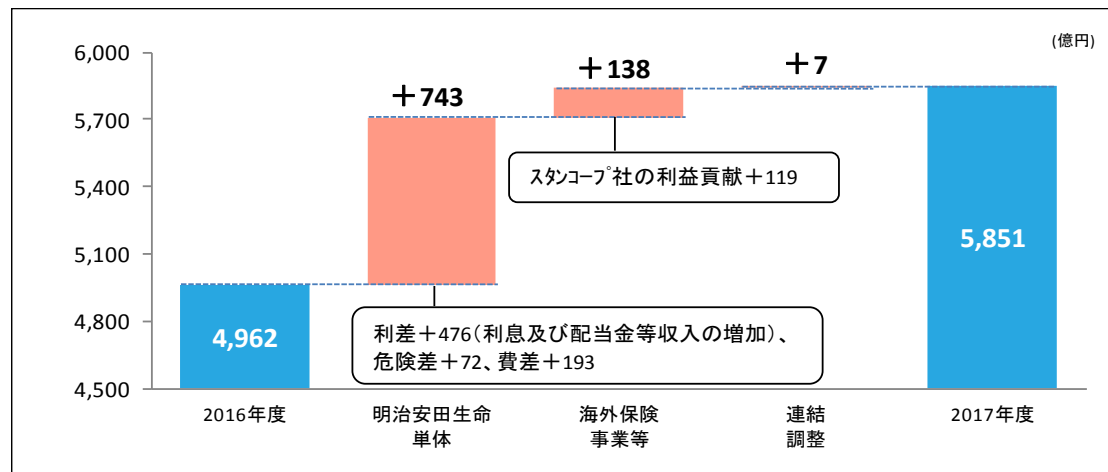
○グループ基礎利益は、5,851億円と前年度比で17.9%増加し、明治安田生命発足以来の過去最高益を更新

・明治安田生命単体の増益およびスタンコープ社の利益貢献が寄与

○グループ基礎利益のうち、海外保険事業等は506億円と前年度比37.6%増加

・グループ基礎利益に占める海外保険事業等の割合は、8.7%(前年度差+1.2ポイント)と順調に伸展

■ グループ基礎利益の増減要因



Ⅱ. 明治安田生命グループの業績

3. 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー (EEV)

■ 連結ソルベンシー・マージン比率、ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(EEV) (単位:%、億円)

	2017 年度末		2016 年度末
		前年度末差	
連結ソルベンシー・マージン比率 ^(注1)	990.2	△8.7 ポイント	998.9
EEV ^(注2)	46,471	+1,183	45,288
うち明治安田生命単体	47,852	+720	47,132
うちスタンコープ社	4,713	+458	4,255
【参考値】 ^(注3)	約 49,000	—	—

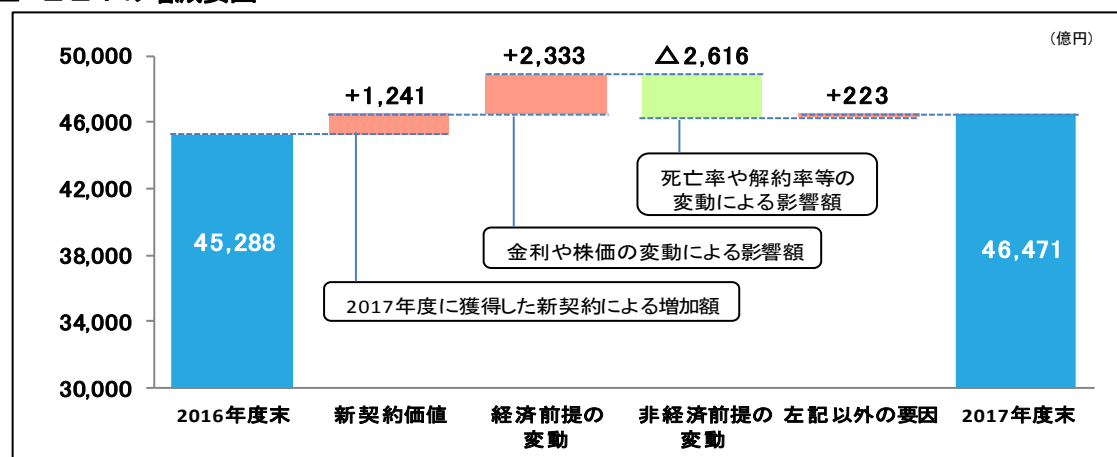
- (注1) 「ソルベンシー・マージン比率」とは、大災害や株価の暴落等、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つ。この数値が200%を下回った場合、監督当局による業務改善命令等の対象
- (注2) 「ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(EEV)」とは、生命保険会社の企業価値を表わす指標の一つであり、保有契約から見込まれる将来利益の現在の価値や、保有資産の含み損益等で構成
- (注3) 超長期部分の金利に、I A I S (保険監督者国際機構) が検討を進める I C S (国際資本基準) をふまえたもの(終局金利)を用いて算出した値

○連結ソルベンシー・マージン比率は、990.2%と引き続き高い健全性を維持

○ヨーロピアン・エンベディッド・バリュー(EEV)は、4兆6,471億円と前年度末差1,183億円の増加

・主力の保障性商品を中心とした新契約価値や、株式の含み益拡大が、EEVの増加に寄与

■ EEVの増減要因



II. 明治安田生命グループの業績

4. 連結損益計算書・連結貸借対照表

■ 連結損益計算書（要約）

	2017年度		2016年度
		前年度比	
経常収益（A）	41,170	+6.2%	38,754
うち保険料等収入	30,243	+5.5%	28,663
うち資産運用収益	9,587	+10.0%	8,714
経常費用（B）	37,468	+5.2%	35,605
うち保険金等支払金	24,288	+1.9%	23,832
うち責任準備金等繰入額	4,366	+31.6%	3,318
うち資産運用費用	2,387	+21.2%	1,970
うち事業費	4,616	+5.0%	4,397
経常利益（A－B）	3,701	+17.6%	3,148
特別損益	△1,088	—	△624
法人税等合計	△46	—	278
非支配株主に帰属する当期純剰余	9	+6.5%	8
親会社に帰属する当期純剰余	2,650	+18.5%	2,237

（単位：億円）

■ 連結貸借対照表（要約）

	2017年度末		2016年度末
		前年度末差	
資産の部合計	415,434	+11,306	404,127
うち現預金・コールローン	7,360	+1,404	5,955
うち有価証券	331,285	+10,824	320,460
うち貸付金	52,764	△1,461	54,226
うち有形固定資産	9,158	△73	9,231
うち無形固定資産	4,850	△322	5,173
負債の部合計	374,196	+10,512	363,684
うち保険契約準備金	348,710	+5,689	343,020
うち責任準備金	339,012	+5,685	333,327
うち社債	4,823	+726	4,097
うちその他負債	8,914	+3,602	5,312
うち価格変動準備金	6,854	+1,071	5,782
うち繰延税金負債	3,777	△560	4,337
純資産の部合計	41,237	+794	40,443
うち基金・基金償却積立金	8,800	+500	8,300
うち連結剰余金	5,049	△97	5,147
うちその他有価証券評価差額金	25,839	+413	25,425

（単位：億円）

※資産の部合計は、41兆5,434億円（前年度末比2.8%増）となりました。主な資産構成は、有価証券33兆1,285億円（同3.4%増）、貸付金が5兆2,764億円（同2.7%減）です。

負債の部合計は、37兆4,196億円（同2.9%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は34兆8,710億円（同1.7%増）となりました。

純資産の部合計は、4兆1,237億円（同2.0%増）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は8,800億円（同6.0%増）、その他有価証券評価差額金は2兆5,839億円（同1.6%増）となりました。

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

1. 保険料等収入

■ 保険料等収入の状況

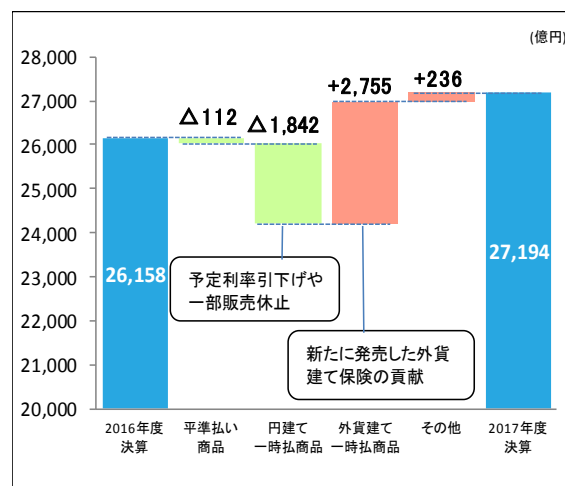
(単位：億円)

	2017年度		2016年度
		前年度比	
保険料等収入	27,194	+4.0%	26,158
うち個人保険・個人年金保険	17,355	+4.4%	16,631
うち営業職員チャネル	13,505	+3.2%	13,081
うち平準払商品	12,127	△1.0%	12,248
うち一時払商品	1,378	+65.4%	833
うち銀行窓販チャネル	3,489	+12.0%	3,114
うち団体保険	3,121	△0.3%	3,130
うち団体年金保険	6,357	+5.4%	6,028

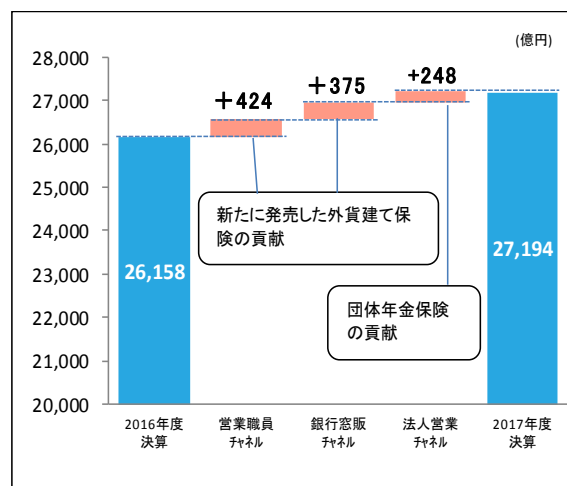
○保険料等収入は、2兆7,194億円と前年度比4.0%増加

- ・ 予定利率引下げや一部商品の販売休止等を行なったものの、2017年8月に発売した外貨建て保険等の貢献により増収を達成
- ・ 営業職員チャネルは、主力の「ベストスタイル」等が堅調推移したほか、外貨建て保険が貢献し、前年度比3.2%増加

■ 保険料等収入の増減要因



■ 販売チャネル別の増減要因



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

2. 年換算保険料（個人保険・個人年金保険）

■ 新契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2017年度		前年度比	2016年度	
新契約年換算保険料	1,279	△28.9%		1,799	
うち営業職員チャンネル	1,077	△24.8%		1,432	
うち銀行窓販チャンネル	178	△47.6%		339	
うち第三分野 ^(注)	428	+17.2%		365	

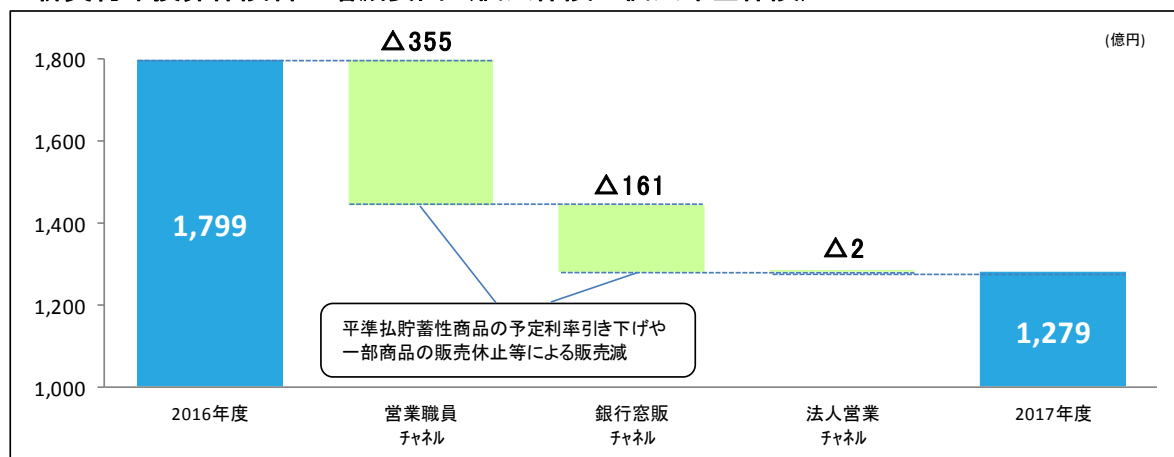
（注）第三分野は、医療保障給付、生前給付保障給付、保険料払込免除給付等に該当する部分を計上

■ 保有契約年換算保険料の状況（個人保険・個人年金保険）

（単位：億円）

	2017年度末		前年度末比	2016年度末	
保有契約年換算保険料	22,511	+0.0%		22,500	
うち営業職員チャンネル	16,202	+0.6%		16,099	
うち銀行窓販チャンネル	5,853	△1.7%		5,952	

■ 新契約年換算保険料の増減要因（個人保険・個人年金保険）



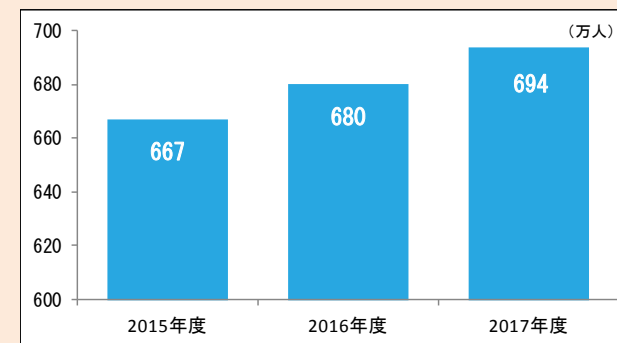
○新契約年換算保険料は、1,279億円と前年度比28.9%減少

・2017年4月に平準払貯蓄性商品において予定利率引き下げや一部商品の販売休止を実施したこと等により、前年度より減少となるも、計画を上回る水準

・うち第三分野は、2017年12月に発売した「50歳からの終身医療保険」等の販売好調により、大幅に伸展

○中期経営計画の経営目標の一つである「お客さま数（営業職員チャンネル）」は、「かんたん保険シリーズライト！By明治安田生命」の販売好調等により、694万人と引き続き増加

■ お客さま数（営業職員チャンネル）の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

3. 保有契約高（団体保険・団体年金保険）

■ 保有契約高の状況（団体保険・団体年金保険）

（単位：億円）

	2017 年度末		2016 年度末
		前年度末比	
団体保険	1,139,442	+0.9%	1,129,569
団体年金保険	76,072	+2.2%	74,417
（国内グループ） ^(注)	88,117	+2.6%	85,870

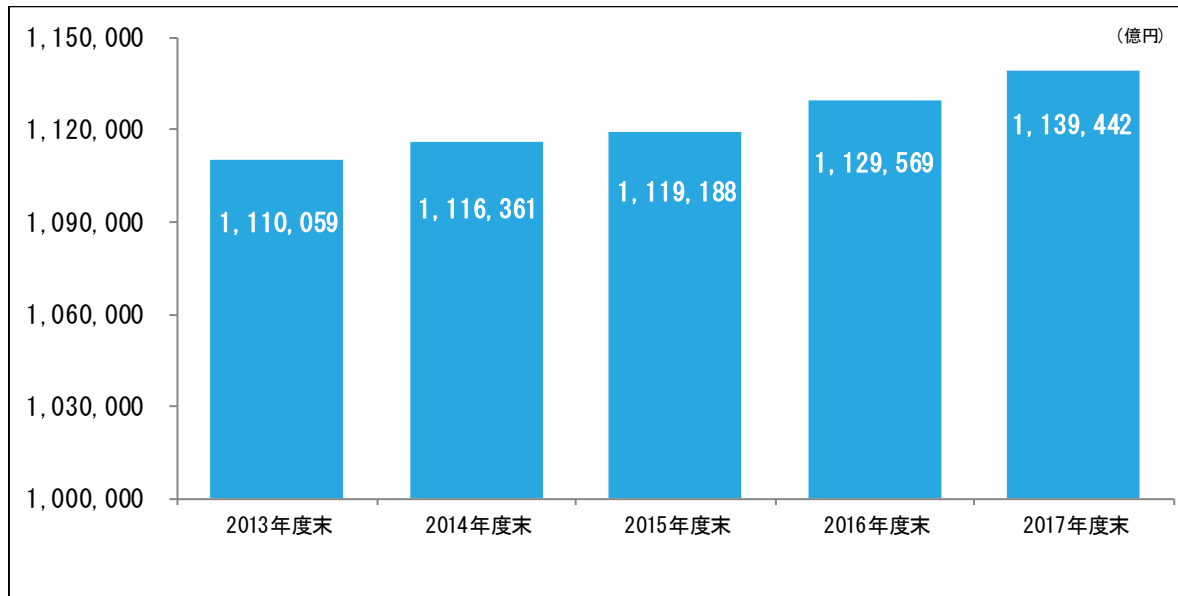
（注）国内グループは明治安田生命単体および明治安田アセットマネジメントの合計

○団体保険は、113兆9,442億円と前年度末比0.9%増加

・引き続き業界トップシェアを堅持

○団体年金保険は、7兆6,072億円と前年度末比2.2%増加

■ 団体保険の保有契約高の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

4. 基礎利益

■ 基礎利益等の状況

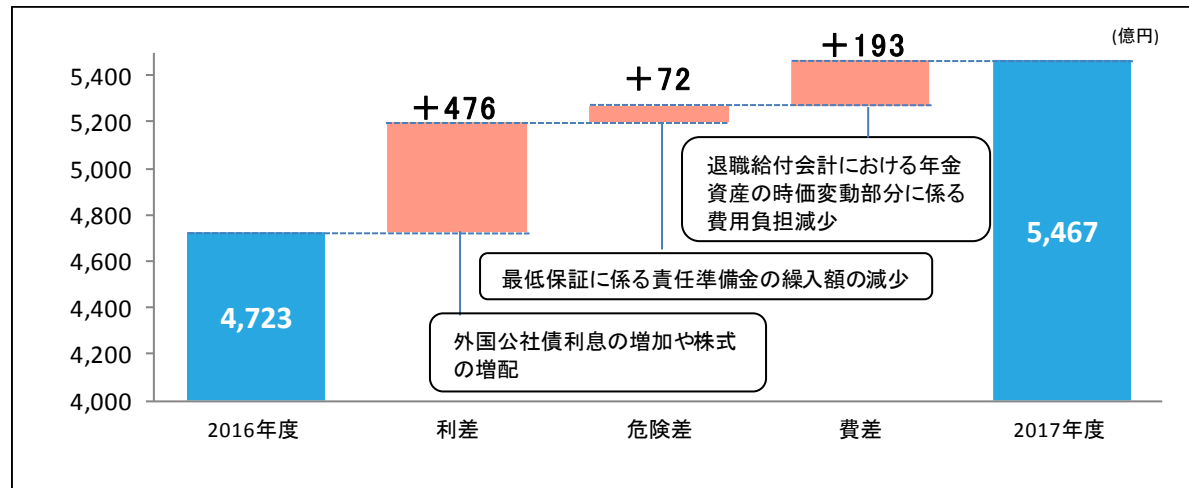
(単位：億円)

	2017年度		前年度差	2016年度	
基礎利益 (A) (注1)	5,467	+743		4,723	
利差	2,225	+476		1,748	
危険差	2,889	+72		2,816	
費差	352	+193		158	
キャピタル損益 (B) (注1)	△1,336	△206		△1,130	
臨時損益 (C) (注2)	△446	△37		△408	
経常利益 (A+B+C)	3,683	+499		3,184	

(注1) マーケット・ヴァリュウ・アジャストメントに係る解約返戻金額変動の影響額および外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額に関して、経常利益の内訳の開示方法を変更。なお、この変更を2016年度決算に適用すると、2016年度決算の基礎利益は2億円増加、キャピタル損益は2億円減少

(注2) 臨時損益には、危険準備金繰入・戻入額および追加責任準備金繰入額等を含む

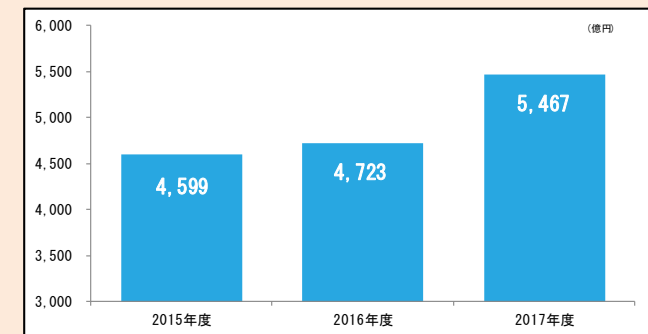
■ 基礎利益の増減要因



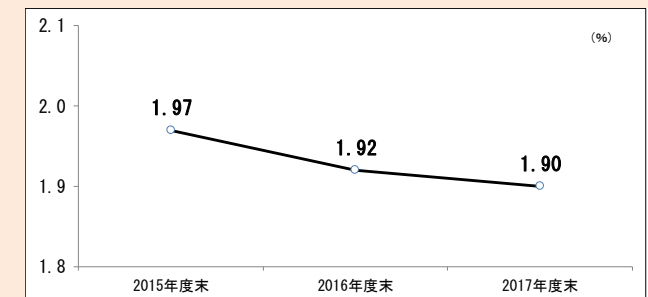
○基礎利益は、5,467億円と前年度差で743億円増加

- ・明治安田生命発足以来の過去最高益
- ・外国公社債利息の増加や株式の増配等が、利差益拡大に貢献

■ 基礎利益の推移



■ 平均予定利率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

5. 資産運用収支

■ 資産運用収支の状況

(単位：億円)

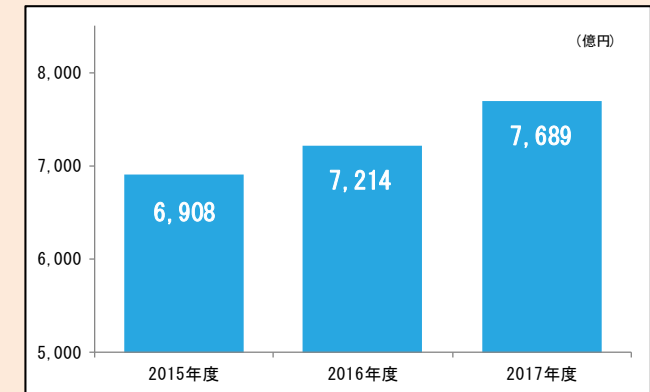
	2017年度		前年度差	2016年度	
資産運用収支（全社）	6,828	+387		6,440	
資産運用収支（一般勘定）	6,454	+172		6,282	
資産運用収益	8,527	+525		8,002	
利息及び配当金等収入	7,689	+474		7,214	
有価証券売却益	251	+35		216	
有価証券償還益	581	+14		566	
資産運用費用	2,072	+352		1,720	
有価証券売却損	380	+59		320	
有価証券評価損	85	△34		120	
金融派生商品費用	1,138	+236		901	

○資産運用収支（一般勘定）は、6,454億円と前年度差172億円増加

○利息及び配当金等収入は、7,689億円と前年度差474億円増加

- ・外国公社債の積み増し等による利息収入の増加や、好調な企業業績を背景とした株主配当の増加等が主因

■ 利息及び配当金等収入の推移



【参考】2017年度報告の運用環境

	2017年度末		前年度末差	2016年度末	
TOPIX	1,716.30	+203.70		1,512.60	
日経平均株価（円）	21,454.30	+2,545.04		18,909.26	
10年国債利回り（%）	0.045	△0.020		0.065	
米国10年国債利回り（%）	2.739	+0.352		2.387	
円相場（円/\$）	106.24	△5.95		112.19	
円相場（円/€）	130.52	+10.73		119.79	

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

6. 健全性指標・企業価値（EEV）

■ ソルベンシー・マージン比率

（単位：％）

	2017年度末	前年度末差	2016年度末
ソルベンシー・マージン比率	937.9	△7.6 ポイント	945.5

■ 経済価値ベースのソルベンシー比率（ESR）^{（注1）}

（単位：％）

	2017年度末	前年度末差	2016年度末
ESR	129	—	—
【参考値】 ^{（注2）}	165	—	—

（注1） 当社のリスク量全体（信頼水準99.5%）に対して十分な自己資本が確保できているかを示す経済価値ベースの指標（当社の内部モデルに基づく数値）

（注2） I A I S が検討を進める I C S をふまえたモデル【終局金利、運用期待収益率(0.15%)上乗せ、税効果等を反映】で算出した値。現在検討が進められている I C S の動向等をふまえた計測モデルの高度化を今後も検討

■ オンバランス自己資本

（単位：億円）

	2017年度末	前年度末差	2016年度末
オンバランス自己資本 ^{（注3）}	26,511	+1,870	24,641

（注3） 資本性が比較的強いと考えられる部分に限定した内部留保と外部調達資本の合計額

■ 実質純資産額

（単位：億円、％）

	2017年度末	前年度末差	2016年度末
実質純資産額	98,275	+2,635	95,639
一般勘定資産に対する比率	26.1	+0.0 ポイント	26.0

■ 企業価値（EEV）

（単位：億円）

	2017年度末	年度始差	2017年度始
企業価値（EEV） ^{（注4）}	49,405	2,273	47,132

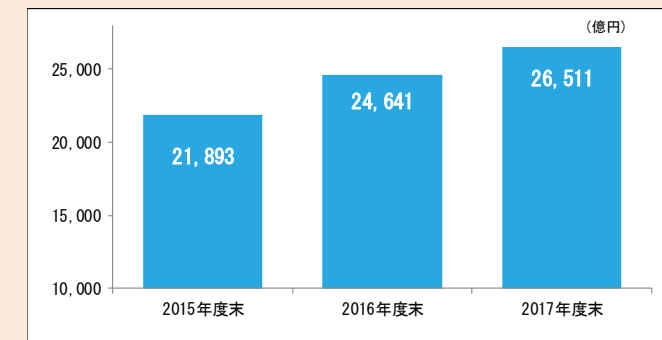
（注4） 経済環境の前提を2016年度末で固定しているほか、貯蓄性商品の解約率などコントロールすることが困難な前提の変動による影響分を除外した額。当該影響分も考慮した企業価値（EEV）は48,333億円（Ⅱ.3に記載のヨーロッパ・エンベディッド・バリュー（EEV）とは数値が相違）

○ソルベンシー・マージン比率は、937.9%と引き続き高い財務健全性を維持

○経済価値ベースのソルベンシー比率であるESRは中期経営計画目標値（150～160%以上）に向け順調に進捗

○オンバランス自己資本は、2兆6,511億円と前年度末差1,870億円増加
・2017年11月に国内劣後債1,000億円を発行したほか、価格変動準備金の積み増しを実施

■ オンバランス自己資本の推移



○実質純資産額は、9兆8,275億円と前年度末差2,635億円増加

○企業価値（EEV）は、4兆9,405億円と年度始差2,273億円増加

Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

7. 含み損益、国内株式含み損益ゼロ水準

■ 一般勘定資産全体の含み損益

(単位：億円)

	2017 年度末		前年度末差	2016 年度末
一般勘定資産全体の含み損益	61,826	+1,417		60,409
うち時価のある有価証券 ^(注)	57,886	+1,217		56,669
うち公社債	26,421	+544		25,877
うち株式	26,678	+3,195		23,482
うち外国証券	4,106	△2,634		6,741
うち不動産	4,103	447		3,655

(注) 有価証券には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含む

■ 国内株式含み損益ゼロ水準

仮に当社ポートフォリオが日経平均株価およびTOPIXにフル連動するとした場合

	2017 年度末	2016 年度末
日経平均株価ベース	8,200 円程度	8,000 円程度
TOPIXベース	660 ポイント程度	650 ポイント程度

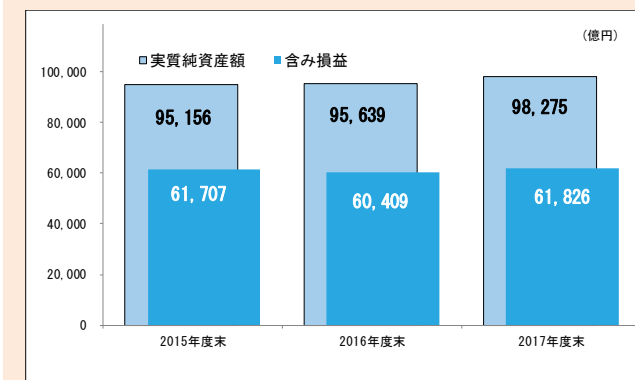
○一般勘定資産全体の含み損益は6兆1,826億円と前年度末差1,417億円増加

・株価上昇に伴い、株式の含み益が増加

○株式の含み損益は、2兆6,678億円(月中平均価格ベース・前年度末差+3,195億円)

○国内株式含み損益ゼロ水準は、8,200円程度

■ 含み損益の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

8. 契約クオリティ(解約・失効・減額率、総合継続率)

■ 解約・失効・減額率^(注1)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

	2017年度		前年度差	2016年度
	解約・失効・減額率	3.56		
解約・失効・減額率	3.56	△0.07ポイント		3.63

(注1) 年度始保有契約年換算保険料に対する解約・失効・減額年換算保険料の割合

■ 総合継続率^(注2)の状況(個人保険・個人年金保険)

(単位: %)

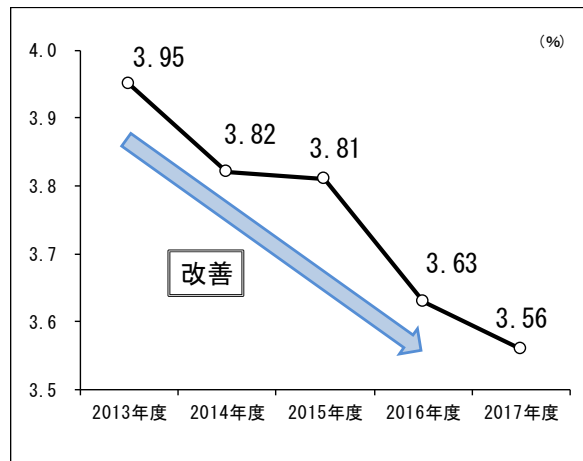
	2017年度		前年度差	2016年度
	13月目総合継続率	95.4		
13月目総合継続率	95.4	△0.2ポイント		95.6
25月目総合継続率	89.8	△0.4ポイント		90.2

(注2) 総合継続率は、契約高ベースにて算出

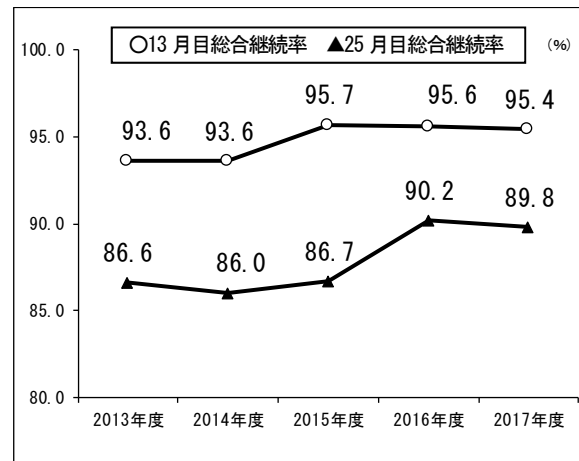
○契約クオリティを示す指標は、引き続き良好に推移

- ・対面によりご契約内容やご請求有無を確認する「定期点検」等を通じた積極的なアフターフォローを推進
- ・解約・失効・減額率は、3.56%と前年度差0.07ポイント改善
- ・総合継続率は、13月目・25月目総合継続率ともに高水準を維持

■ 解約・失効・減額率の推移



■ 総合継続率の推移



Ⅲ. 明治安田生命単体の業績

9. 損益計算書・貸借対照表

■ 損益計算書（要約）

	2017年度		前年度比
	2017年度	前年度比	
経常収益（A）	37,101	+4.7%	
うち保険料等収入	27,194	+4.0%	
うち資産運用収益	8,901	+9.1%	
経常費用（B）	33,418	+3.7%	
うち保険金等支払金※	22,125	+0.4%	
うち責任準備金等繰入額	4,190	+29.5%	
うち資産運用費用	2,072	+20.5%	
うち事業費	3,564	+1.7%	
経常利益（A-B）	3,683	+15.7%	
特別損益	△1,086	—	
法人税等合計	195	△12.5%	
当期純剰余	2,401	+2.7%	

（単位：億円）

2016年度
35,422
26,158
8,160
32,237
22,040
3,236
1,720
3,503
3,184
△623
223
2,338

■ 貸借対照表（要約）

	2017年度末		前年度末差	2016年度末
	2017年度末	前年度末差		
資産の部合計	385,643	+10,028		375,614
うち現預金・コールローン	5,974	+1,839		4,135
うち有価証券	317,819	+9,185		308,634
うち貸付金	45,073	△1,746		46,819
うち有形固定資産	8,730	△93		8,824
うち無形固定資産	807	+37		769
負債の部合計	344,599	+9,561		335,038
うち保険契約準備金	321,474	+4,157		317,316
うち責任準備金	317,985	+4,153		313,832
うち社債	4,533	+1,000		3,533
うちその他負債	7,549	+3,537		4,011
うち価格変動準備金	6,845	+1,070		5,775
うち繰延税金負債	3,173	△213		3,387
純資産の部合計	41,043	+467		40,576
うち基金・基金償却積立金	8,800	+500		8,300
うち剰余金	5,057	△326		5,383
うちその他有価証券評価差額金	25,640	+302		25,338

（単位：億円）

※保険金等支払金の内訳

	2017年度		前年度比
	2017年度	前年度比	
保険金等支払金	22,125	+0.4%	
うち保険金・給付金	10,602	+10.3%	
うち年金	6,453	△7.2%	
うち解約返戻金・その他返戻金	5,013	△7.5%	

（単位：億円）

2016年度
22,040
9,611
6,952
5,421

※資産の部合計は、38兆5,643億円（前年度末比2.7%増）となりました。主な資産構成は、有価証券31兆7,819億円（同3.0%増）、貸付金が4兆5,073億円（同3.7%減）です。

負債の部合計は、34兆4,599億円（同2.9%増）となりました。負債の大部分を占める保険契約準備金は32兆1,474億円（同1.3%増）となりました。

純資産の部合計は、4兆1,043億円（同1.2%増）となりました。純資産の部のうち、基金・基金償却積立金は8,800億円（同6.0%増）、その他有価証券評価差額金は2兆5,640億円（同1.2%増）となりました。

IV. スタンコープ社の業績【参考】

1. スタンコープ社の保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益

■保険料等収入、基礎利益相当額、当期純利益の状況 (注1)

(単位：億円)

	2017年度		2016年度
		前年度比	
保険料等収入	2,811	+24.1%	2,265
基礎利益相当額 (注2)	359	+49.5%	240
当期純利益 (注3)	407	+470.1%	71

(注1) スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、グループ業績への反映期間は1月から12月までの12ヵ月分。2016年度は3月(株式取得月)から12月までの10ヵ月分。2016年度は2016年12月末の為替レート(1米ドル=116.49円)、2017年度は2017年12月末の為替レート(1米ドル=113.00円)で円換算

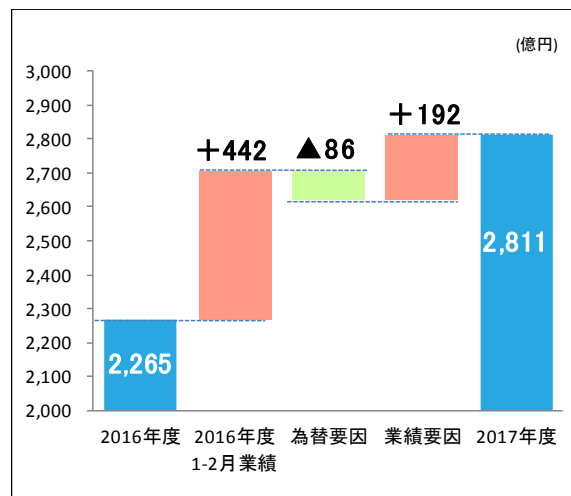
(注2) 基礎利益相当額は、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前の税引前利益からキャピタル損益等の一時費用を控除したもの

(注3) 買収会計適用後

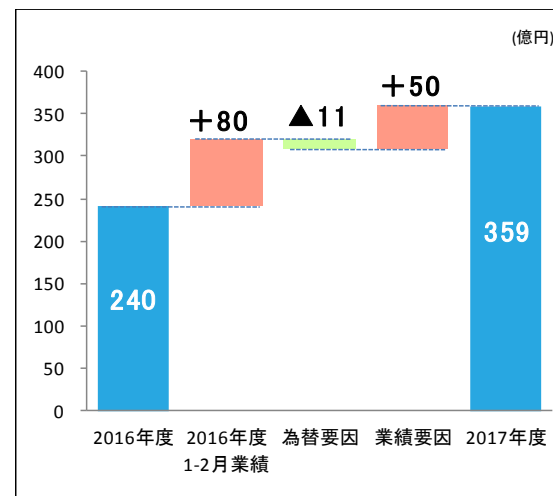
○保険料等収入は主力である団体保険事業を中心に堅調に推移し、2,811億円と前年度比24.1%の増収

○基礎利益相当額は359億円と前年度比49.5%の増益。当期純利益については、米国での法人税率引き下げによる繰延税金負債の取り崩しに伴う一時的な利益計上等から、407億円と前年度比で大幅に増益

■保険料等収入の増減要因



■基礎利益相当額の増減要因



IV. スタンコープ社の業績【参考】

2. 損益計算書・貸借対照表（スタンコープ社）

■ 損益計算書（要約）^{（注1）}

	2017年度 <small>（注2）</small>	2016年度 <small>（注3）</small>
経常収益（A）	3,733	3,016
うち保険料等収入	2,811	2,265
うち資産運用収益	774	627
経常費用（B）	3,603	2,931
うち保険金等支払金	2,049	1,678
うち責任準備金等繰入額	156	65
うち資産運用費用	322	246
うち事業費	846	698
経常利益（A－B）	129	84
特別損益	△1	△0
法人税等合計	△280	12
当期純利益	407	71

（単位：億円）

■ 貸借対照表（要約）^{（注1）}

	2017年度末 <small>（注2）</small>	前年度末差	2016年度末 <small>（注3）</small>
	資産の部合計	34,094	+1,028
うち現預金・コールローン	434	△341	776
うち有価証券	19,442	+1,404	18,037
うち貸付金	7,439	+284	7,155
うち有形固定資産	302	+22	279
うち無形固定資産	4,184	△284	4,468
負債の部合計	27,995	+845	27,150
うち保険契約準備金	26,540	+1,524	25,016
うち責任準備金	20,394	+1,527	18,866
うち社債	290	△273	564
うちその他負債	618	+21	596
うち繰延税金負債	467	△400	867
純資産の部合計	6,098	+183	5,915
うち資本剰余金	5,593	△172	5,766
うち利益剰余金	387	+315	71
うちその他有価証券評価差額金	128	+79	49

（単位：億円）

（注1）米国の会計基準で作成した財務諸表を、日本の会計基準に準じて組み替え。なお、スタンコープ社は決算日が明治安田生命単体と3ヵ月ずれるため、損益計算書は1月から12月の実績。2016年度は3月（株式取得月）から12月までの10ヵ月分

（注2）2017年12月末の為替レート（1米ドル=113.00円）で円換算

（注3）2016年12月末の為替レート（1米ドル=116.49円）で円換算

V. 社員（ご契約者）配当

2017年度決算（案）に基づく社員配当

- 個人保険・個人年金保険について、2年連続で配当率を引き上げ
 - ・ 死亡率の改善等をふまえ、危険差配当率を引き上げ
 - ・ 影響額は約70億円で、明治安田生命発足以来、2番目の引き上げ幅

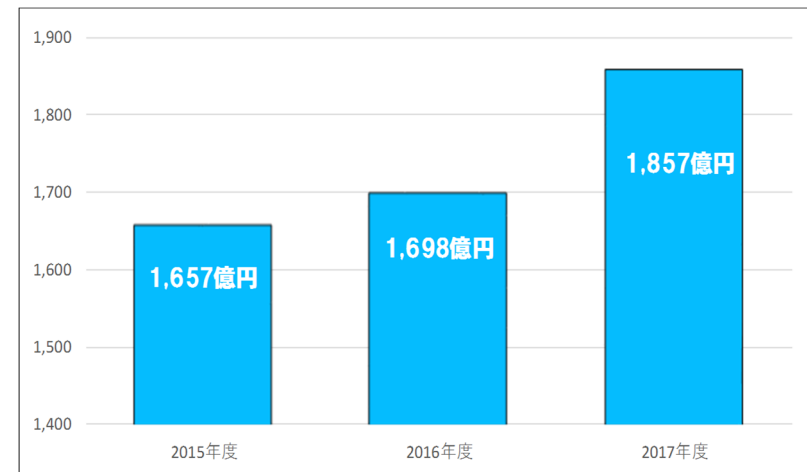
前年度を大きく上回る配当還元を行ないます

当社は相互会社として、中長期的に安定した配当還元を行ない、ご契約者の実質的な保険料負担の軽減に努めております。

2017年度決算における個人保険・個人年金保険の契約者配当は、死亡率の改善等をふまえ、死亡保障付商品の危険差配当率を引き上げることで、2年連続での配当率引き上げといたしました。

これらにより、2016年度決算を大きく上回る配当還元を行ないます。

■ 配当準備金繰入額（注）の推移



（注） 剰余金からの社員配当準備金繰入額。なお、2017年度は、剰余金処分案に基づく金額

VI. 業績見通し

2018年度業績見通し

■ グループ保険料の見通し

	2018年度見通し	前年度比	2017年度実績
グループ保険料 (注1) (注3)	32,000億円程度	増加	30,243億円
うち明治安田生命単体	29,000億円程度	増加	27,194億円
うちスタンコープ社	2,800億円程度	横ばい	2,811億円

■ グループ基礎利益の見通し

	2018年度見通し	前年度比	2017年度実績
グループ基礎利益 (注2) (注3)	5,850億円程度	横ばい	5,851億円
うち明治安田生命単体	5,450億円程度	横ばい	5,467億円
うちスタンコープ社	350億円程度	横ばい	359億円

(注1) グループ保険料は連結損益計算書上の保険料等収入

(注2) グループ基礎利益は、明治安田生命の基礎利益に連結される子会社および子法人等ならびに持分法適用の関連法人等のキャピタル損益等を控除した税引前利益のうち明治安田生命の持分相当額を合算し、明治安田生命グループ内の内部取引の一部を相殺した数値。なお、スタンコープ社については、買収会計に伴う保有契約価値の償却費用等を控除する前のベースで合算

(注3) 業績見通しにおける想定為替レート：対米ドル110円

■ 企業価値（EEV）の見通し

	2018年度末	2017年度末
企業価値（EEV）	年平均6%程度増加	49,405億円

○保険料等収入は、2017年8月に発売した外貨建て保険に加え、第三分野商品の拡販等により、グループ・単体ともに、前年度から「増加」の見通し

○基礎利益は、グループ・単体ともに過去最高益となった前年度と同程度の「横ばい」の見通し

○企業価値（EEV）は、6%程度増加の見通し

Ⅶ. トピックス

1. 「信頼を得て選ばれ続ける、人に一番やさしい生命保険会社」の実現をめざして

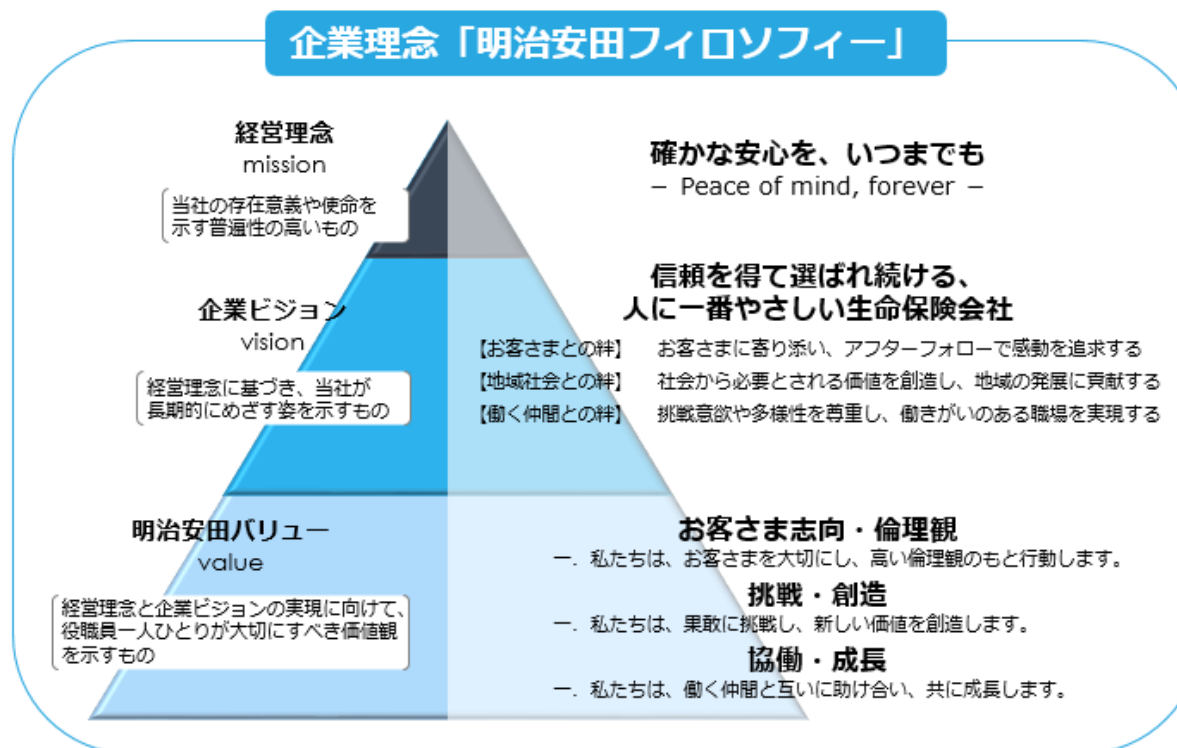
◆ 新企業理念の制定

- ・ 2017年4月に、新たな企業理念「明治安田フィロソフィー」を制定しました
- ・ お客さまに「確かな安心を、いつまでも」お届けすること。この使命のもと、「お客さまとの絆」・「地域社会との絆」・「働く仲間との絆」の3つの「絆」を大切に、当社は「人に一番やさしい生命保険会社」をめざした取組みを行なっています

◆ 「明治安田フィロソフィー」について

- ・ 企業理念「明治安田フィロソフィー」は、「経営理念」、「企業ビジョン」、「明治安田バリュー」の3層で構成
- ・ 当社の存在意義や使命を示す「経営理念」は「確かな安心を、いつまでも」
- ・ 当社が長期的にめざす姿を示す「企業ビジョン」は、

**「信頼を得て選ばれ続ける、
 人に一番やさしい生命保険会社」**



Ⅶ. トピックス

2. 「お客さまとの絆」

◆MY安心ファミリー登録制度

- ・高齢のご契約者への連絡や大規模災害時におけるご契約者への連絡を確実にするための制度
- ・あらかじめご契約者以外の連絡先（第二連絡先）をご登録いただくことで、ご契約者との連絡が困難な場合等に、第二連絡先を通じてご契約者の最新の連絡先をご確認させていただく制度
- ・登録状況は、高齢のご契約者さまを中心として、約196万人（2018年3月末現在）

◆MY長寿ご契約点検制度

- ・超高齢社会における保険金・給付金のお支払いを確実にするための制度
- ・長寿のお祝い等の節目（77歳（喜寿）、90歳（卒寿）、99歳（白寿）等）に当社からはがきや電話を差しあげ、保険金等のご請求やご連絡先・受取人の変更の有無を確認。90歳以上の方には訪問による確認も実施

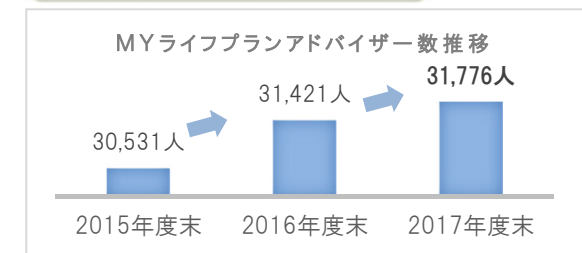
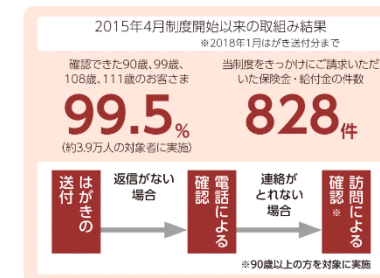
◆「MYアシスト+」制度

- ・自力でのお手続きが難しいお客さまをサポートする制度
- ・当社職員の「代筆」による、生命保険に関する諸手続きのサポートや、専任担当者がお客さまをサポートする「アシスト・デスク」の設置および、「アシスト・デスク」の専用フリーダイヤル、専用メール受付サイトのQRコードを記載した「アシスト・カード」の発行等を実施

◆「MYライフプランアドバイザー（営業職員）数」の増加

- ・今後ますます加速していく超高齢社会において、対面のアフターフォローでお客さまへ安心をお届けするMYライフプランアドバイザー（営業職員）数は増加傾向

下記ケース等で連絡がとれない場合



Ⅶ. トピックス

3. 「地域社会との絆」

◆「明治安田生命Jリーグ」

- ・「明治安田生命Jリーグ」の応援を通じて、地域に貢献するための活動を展開
- ・Jリーグの「地域に根差したスポーツクラブを核として、豊かなスポーツ文化を醸成する」という考えに賛同し、2015年1月にタイトルパートナー契約を締結。
今シーズンで4年目を迎える
- ・加えて、全国の支社等において「明治安田生命Jリーグ」に所属する全54クラブ等（※）とスポンサー契約を締結
- ・2017シーズンは、当社従業員・家族と地域のお客さまあわせて約27万人がスタジアムに足を運びJクラブ等を応援

※近隣にJクラブがない場合は、JFL等に所属しているクラブ

◆全国各地で小学生を対象としたサッカー教室など、各種イベントを開催

- ・地元のJクラブ等のみならずの全面協力を得て、2017シーズンは、小学生を対象としたサッカー教室を全国で186回開催し、約16,000人のお子さまや保護者の方々が参加
- ・あわせて、地元Jクラブやパートナー企業等のご協力のもと、フットサル大会やJリーグ選手OBの講演会等のイベントも開催

◆「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」を自主的に結成

- ・当社女性従業員が中心となり、女性ならではの視点でJリーグを盛り上げようと、全国各組織で「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」を自主的に結成
- ・試合観戦だけでなく、サッカーへの興味・関心を高め応援の輪を広げていくために、さまざまな活動に取組み、女性ならではの視点でJリーグを応援



【小学生向けサッカー教室の様子（浜松支社）】



【「明治安田生命Jリーグ女子倶楽部」の活動の様子】



VII. トピックス

4. 「働く仲間との絆」

◆ あしながチャリティー&ウォーク

- ・親をなくした子どもたちの進学と心のケア支援を行なう取組み
- ・あしなが育英会の協力のもと当社従業員がウォーキングおよびチャリティー募金を通じ、親をなくした子どもたちの進学支援や心のケア支援活動を実施
- ・開催7年目となる2017年度は、全国73カ所で総勢約4万1千人の従業員・家族等が参加



◆ 「MY健康宣言」を策定

- ・「人に一番やさしい生命保険会社」として社会に貢献できるよう、生き活きと働きがいのある職場の実現と、従業員のこころと身体健康づくりに努める健康増進経営を展開
- ・「働きがい」「働きやすさ」のある職場づくりを追求することを掲げ、「働き方改革」を通じた業務効率化による生産性の向上や労働時間管理の高度化を図り、従業員の健康増進に資する環境を整備

◆ ボランティア活動

- ・従業員が積極的に地域に根差したさまざまなボランティア活動に取組み

【熊野古道「道普請」によるボランティア活動の様子】



Ⅶ. トピックス

5. 新たな「健康増進プロジェクト」の始動について

◆ 「健康増進プロジェクト（注1）」

- ・「お客さま（個人、企業・団体）」「地域社会」「働く仲間（自社従業員）」を対象に、ご加入者に限らず、幅広いお客さまの健康増進の取組みを支援
- ・取組みの柱として、「“日常的な運動（予防）”の支援」と「“定期的なけんしん（健診・検診）”の促進」を掲げ、「健康増進商品」「健康増進サービス」「健康増進アクション」の3つの分野で新たな価値を提供するとともに、当社の「基幹機能の高度化」にも取り組み

健康増進を支援する商品の開発（右図①）

- ・健康増進に向けたお客さまの継続的な取組みを支援する新商品を開発・発売【2019年4月発売予定（当局の認可等を前提）】
- ・この新商品においては、標準生命表の改定（死亡率の改善）等を踏まえた新たな保険料率を適用したうえで、さらに、ご加入後は、毎年の健康診断等の結果に応じたメリット（健康増進インセンティブ）をお客さまに提供

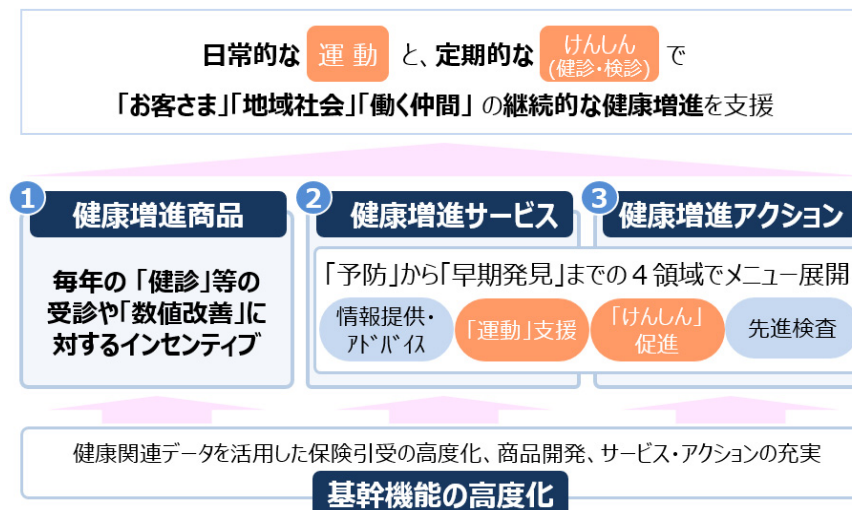
健康増進を支援する「サービス」と「アクション」（右図②③）

- ・ご加入者向けの「健康増進サービス」と、当社未加入者を含めた地域社会のお客さまを対象とした「健康増進アクション」を展開し、病気の予防から早期発見まで、「情報提供・アドバイス」「運動」「けんしん（健診・検診）」「先進検査」の4つの領域でメニューをラインアップ
- ・「健康増進アクション」の取組みの一つとして、「Jリーグや」クラブ、「Jリーグパートナー企業と協働したウォーキングプロジェクト「明治安田生命Jリーグウォーキング」と、社会人向けのフットサル大会「明治安田生命フットサルフェスタ2018」を、2018年5月から開催（注2）

（注1）2018年3月6日リリース参照 http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2017/pdf/20180306_02.pdf

（注2）2018年5月18日リリース参照 http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2018/pdf/20180518_01.pdf

【健康増進プロジェクトの全体像】



【明治安田生命Jリーグウォーキング】

